



明けましておめでとうございます。

新しい年、令和4年を迎えました。今年も、職員一同、子どもたちがその子らしく伸びていけるよう、精一杯支援していきたいと思います。今後とも、本校の教育活動への御理解、御協力をお願いいたします。



3月に卒業する6年生の子どもたちが、卒業文集を書いています。今年の文集のテーマは、「自分が大切にしている言葉」です。子どもたちが選んだ言葉のいくつかを紹介します。

- ・ありがとう ・やればできる ・大丈夫 ・わたしは一人じゃない
- ・やらないで後悔するより、やって後悔する ・継続は力なり
- ・人事を尽くして天命を待つ ・心に花を咲かせよう ・雲の上はいつも晴れ
- ・あきらめたら、そこで試合終了 ・失敗を恐れて何もしないことが一番の失敗
- ・虹を見たかったら、雨も我慢しなくちゃね ・苦しい時こそ前を向く

子どもたちが選んだ言葉は、すべて前向きな言葉でした。子どもたちが選んだ言葉には、その子のドラマがあります。苦しい時、くじけそうになった時、孤独になった時、自分が自分に負けそうになった時、心がいっぱいになった時、そして、挑戦の坂道を登り切った時。そんな自分が出会った「あたたかな言葉」に、そっと背中を押されたに違いありません。

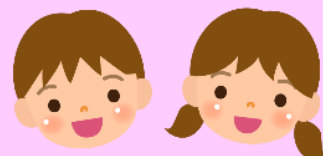
こうした言葉の中で、子どもたちが一番背中を押されたのは、保護者の皆さんからの言葉だと言います。子どもは、成長する過程で、いろいろなことを経験します。全てが順風満帆に行くことはありません。一生懸命やったのに結果が出ない。挑戦したいのに、自分から一歩が踏み出せない。友達とのすれ違いに傷つき、思い悩むこともあるでしょう。

そんな時、親は、子どもが安心して、自分で立ち上がり、自分から前へ進もうとすることができるようにと、思いや願いを込めて子どもたちに声をかけ励まします。その言葉が、どれだけ子どもの支えになっていることでしょうか。どれだけ背中を押されたことでしょうか。

そんな親の気持ちを込めた詩を紹介します。

あなたはひかり みつはしちかこ

そのままのあなたが好きよ
自分の弱さと戦いながら 転んだり 傷ついたりして 不器用に生きている
あなた がんばって がんばって あなたの中に あたしを見つける
人は みっともないから 可愛いと思う
恥をかくから あったかいと思う
好きなものをだいじにして あきらめないで 捨てないで
あなたはひかり 輝く地球の 一粒のひかり



子どもは、光を放っています。「私を見て、僕を見て」と、精一杯、光を放っています。子どもの放つ光を受け止め、あたたかな言葉で支えていきましょう。（校長 小林 正宣）